

# 鮭鱒彙報

第五卷 第一號

昭和八年一月三十日

## 北海道鮭鱒孵化事業協會

(北海道廳水產課內)

### 目次

年頭所感	北海道廳水產課長 新井藤一郎 (一)
鮭鱒の飼育に就て	農林省水產試驗場技師 川尻稔 (二)
鮭鱒の話	半田芳男 (四)
鱒類飼育成績	(八)
鮭鱒孵化事業補助金決定	(八)
道會議員有志千歳孵化場探卵場視察	(九)
膽振水產會鮭鱒孵化事業創始二十周年紀念祝賀會	(九)
會報	(九)
昭和六年度收支決算報告	(一〇)
孵化事業經營調查委員會經過報告	(一〇)
鮭鱒孵化事業に關する民營孵化事業代表者の陳情	(一一)
新刊紹介	(一二)
鮭放流稚魚の回歸漁獲高表の配布	(一二)
息消	(一二)
會費領收報告	(一二)
寄贈圖書	(一二)

# 新刊案内

北海道帝國大學附屬  
水產專門部教授  
北海道廳技師

理學博士 藤田經信 序  
半田芳男 著

## 鮭鱒人工蕃殖論

定價金四圓五拾錢

送料内地 十四錢  
臺灣、樺太 三十四錢  
朝鮮、關東州 四十九錢  
滿洲國、南洋

發行所

札幌市北三條西五丁目  
北海道廳水產課內

北海道鮭鱒孵化事業協會

振替小樽二一四八番

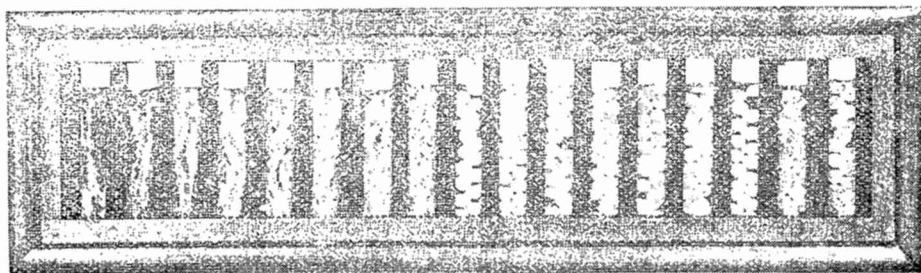
鮭川路孵化場  
(昭和七年十月竣工)



全 景



屈斜路湖口親魚捕獲場



## 鮭發生標本實費配布

甲 一組 金 五 圓

送料不要

乙 同 金 二 圓

送料十二錢

教育、學術、産業上の好資料たる鮭發生標本を作  
製し前記實費を以て配付す、体裁優美にして室内  
裝飾品としても好適す至急申込あれ

北海道鮭鱒孵化事業協會

北海道廳水産課内

# 謹賀新年

北海道鮭鱒孵化事業協會

## 年頭所感

北海道鮭水産課長 新井藤一郎

年改まると共に本道水産界更生の爲に舊倍の勇氣をもつて努力すべきは多言を要しないが之に關聯して本道鮭鱒孵化事業界に就て本誌を通して聊か所懐を述べて見度い。

水産が漁撈と製造と養殖との三方面の調子がよく揃つて始めて完成せらるゝものとすれば鮭鱒の漁獲利用は各種水族の中で最もこの趣旨な叶ふものものと見てよいと思ふ。これは鮭鱒そのものゝ性質からして他種水族よりもこの三方面への施設を容易ならしめたのが主因である。然しこの調和も他のものに比較してよいと言ふに過ぎないので現状を以て完成されたものとは認められない。猶幾多の改善向上を要する余地はある。その中でも特に述べ度いと思ふことは鮭鱒蕃殖施設そのものの改良進歩を圖り効果を増進することゝ蕃殖事業と漁獲とを充分密接な關係を保たしめ同じ範圍の仕事として實施する様にせねばならぬと思ふ。

前者に就ては人工孵化技術が行はれて以來多大の進歩を遂げておる殊に本道の人工孵化技術は基礎的研究から出發して幾多の新發明がありそれが現在の技術に應用されておることは公知の事實であるが今一息と思はるゝことは現在の技術を運用する上に設備をより簡單に經費をより少くして行ふと言ふ方面に進む要があらう。研究所とか試験所とかは別として蕃殖を當面の事業として經濟的な効果を確保する孵化場に於ては是非此方面の解決が緊要である。

後者に就ては現に吾人が直感しておるところである。即孵化は役所てやつて呉れる或は組合、水産會てやつて呉れるから漁りさへすればよいと言ふ觀念がある。又孵化事業經營者は孵化事業は吾々の專賣である。稚魚を孵化放流さへすれば能事終れりと言ふ觀念を有しておる向もある。斯んな事ではお互に盾の半面を眺める様なものと極言すれば群盲が象を撫するの類であつて眞の効果を期することは困難である。これでは稚魚の保護も親魚の遡上保護も充分に行く筈がないし事業經營も圓滑に行かない筈である。現在多數の民間孵化場が多額の負債に悩むのも幾多の原因があるがその一はこれ等の關係から出發しておるものあるは否めないことである。

孵化事業獎勵の立場から多數の孵化場を各所に設置せしむる様に仕向けたことは當然のことであるが今やこれ等を統制して事業の効果を更に大にし經營を安定ならしむる時期に達したと思はるゝのでこの方面に今後官民一致努力し度い希望を有しておるが之を實行するにしても以上述べた私見が實現さるゝ事は之に伴て必要であらうと思ふ。

## 鱒の飼育に就て

川尻 稔 (抄録)

H. S. Davis: - Cur and disease of trout.

## 緒言

近年になつて「放流蕃殖用の鱒は大きなものを」と云ふ要望が聞かれる様になつた。以前は鱒でも鮭でも、浮上間もない稚魚や、大きくても小指位のものが放流せられるに過ぎなかつたのであるが、今日では長い間飼育して六乃至一二インチ位のものを放す様になつて來た。

一九二七年にエンボデイ氏はニューヨーク州の川で調べた所では、浮游間もない稚魚を放流すれば、釣獲の許されるまでの大きさになるには九五%、小指大の魚を放流すれば五〇%の魚は死んでしまつたらうと概算して居る。若しこのことが事實であるとすれば、孵化場や飼育池での減耗がよく避けられるならば、大きな魚を放流することが、結

果がよいと云ふことは明かなことである。

若し稚魚が夏の間を容易に過し得るならば、放流魚の生産を多量にすることが出来る譯で、養鱒當業者は非常に助かることである。所が茲數ヶ年の間に、この苦痛は少くなり、六インチ以上の大きさの魚を養成すると云ふことは餘り六つかしいことではないと云ふ觀念が興つて來た。

鱒の稚魚を飼育する場合の減耗の多いことは、容易に防止し得るものと信ぜられる、これは小規模の試験の結果ではあるが、採卵後一ヶ年間の全減耗割合は一割以内で止まつたこともある位であるから、これが直ぐに大規模の場合の標準割合とはならないにしても、この記録に接近せしめることは出来る筈である。鱒の減耗は卵の時代、殊に發眼前に多くて、稀には二割、三割と云ふ場合もあるけれども

發眼してから餌を食ふ様になるまでの減耗はズット減少するものであり、それから暫らくの間が非常に危険な時代で死魚が多く出来るもので、續いて夏、秋の間も斃死魚の多い時期であるから十分の注意が必要である。

鱒の種類に依つて多少の相違があり、色々の點で同一でないから、一つの良い成績があつても、それと同じ様に取り扱ふことは出来ないから、本書では多くの試験をした河鱒に就て主に記載することにする。

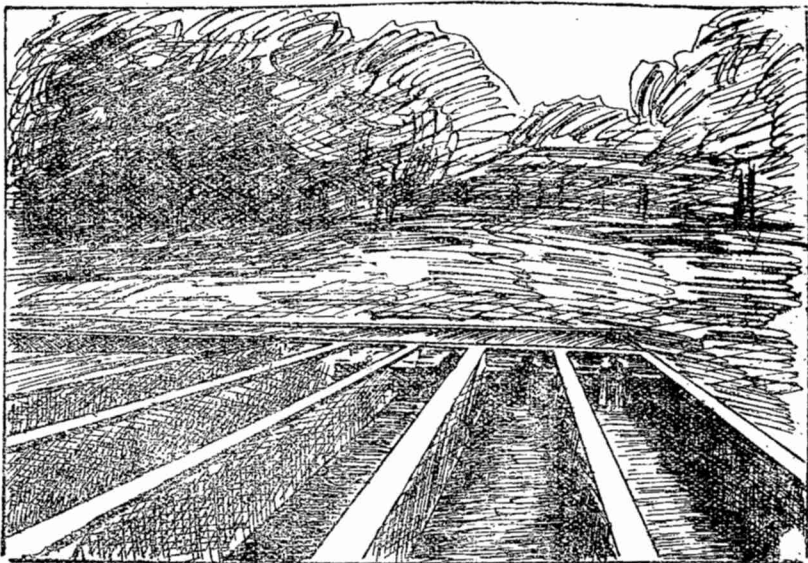
## 稚魚の飼育

生物學上からも經濟上から云ふても、ドウすれば稚魚を一番好成绩に飼育し得るか云ふのが最も肝要なことである。この問題を考へるに當つては、先づ第一に鱒の最初の數ヶ月間に於ける自然の習性を考へねばならぬ。

一般に知られて居る通り、河鱒は普通小さな緩やかな流の川で産卵し、その稚魚は産卵床の近くに居つて居つて、初年の夏の間はその川が小さくても、上流の方まで溯つて行くものである。この様な小川は常に、水溜りがあつて、又何處かに流れがあるものである。これに反して大きな川で流れの少ない所には、稚魚は棲まぬのが普通である。この小川の水には水中含有酸素の多いのは云ふまでもない。私の方説する點は「吾々が稚魚を飼育するには、自然に

近よらしめると云ふことが、成功の機會を握る第一要點である」と云ふことである。これは魚は水中の酸素が多くて水量が豊富で、水流が十分であることを嗜むからであつて、孵化槽がよい成績を得ると云ふのも、この點からである。昨今多數の養鱒家が、第一年の夏の間は、可成孵化槽が又は大きな飼育槽に、分けて放養するのは、この趣旨に基くものである。斯く魚を水流の十分である所で飼ふ爲には普通の孵化槽より外に良いものは無からうが、元來孵化槽は卵を孵化し、稚魚を飼ふには理想的のものではあるが、多數の魚を飼ふ場合には、色々他の條件を考へねばならぬ。先づ第一に、早く成長して、健康である様にするには、場所が廣くなければならぬから、若し魚を數ヶ月飼育せんとする場合には、多數の槽を必要とする譯である。若し魚が槽中に群集して居る様な場合は、魚は萎縮して、衰弱し、遂には斃死するものが多い。其で養魚の第一眞髓は、魚相當に場所を増加して行くことである。

この様な理由から第一圖にある様な平行長池(Beacham)に稚魚を放養すれば、槽に放養するよりも安全である。勿論この平行長池も孵化槽などと根本は同じであつて、遙か多數の魚が收容せられ、又設備するにも、作業するにも、便利なものである。尙更に都合のよいことは、理想的に設備さへすれば、稚魚を自然に於けると殆ど同様の状態に飼



四 育することが出来易いからである。

この池の大きさは土地の状況に応じて、色々に造られるが水の循環のよい様に幅は狭く、長さを長くした方がよくて水量の多い場合の外は幅を三乃至五フイート、長さは五〇乃至七五フイート位以内にした方が便利である、底は極緩やかな傾斜で、下流の方でも水深は一乃至一五インチ以内でなければならぬ。

多数の養鱒家の内には以上述べた池よりも、モット深い池を主張する者もあるけれども、其は注水の極めて多量である場合に限られて、水が少い時は深いよりも、浅い方が安全である。

稚魚が三乃至四インチ位に成長すれば、平行長池に入れて置くよりも、普通の飼育池に放した方がよい。小指位の大きさになるまでの鱒は、広い池に置いてよいけれども可成ならば長池で養ふた方が安全であつて、広い池に移す時期は魚が指の長さ位になつて、長池では魚が多過ぎる様な時である。

飼育池の形も勿論土地の状況に応じて造らねばならぬが最も注意すべきは水温が餘り高くならぬ様に工夫せねばならぬことである。空氣のよく含まれた流の多い所ならば、河鱒は二三・六位の高温でも、短期間ならば大した害もなく棲息し得るものであるが、虹鱒やブラウン鱒等はモツ

ト高温でもよい。然しこれは魚の飼育水温をいふので、解化用水には全然不向である。

魚が小さい池に澤山、放してある場合に水温が昇つて來たら、溶解酸素が欠乏して來ることは云ふまでもないことで、水温が高くなる程危険になる。

飼育池の水温は大体一五・五以上ではよいとは云はれない、それよりも低温の方がよい。最も成長のよいのは、一二・八乃至一五・五であつて、それよりも高温になると鱒の活氣がなくなり、病氣に罹り易い。

水温が昇り過ぎる様な場合は、池の一部に蔭を作るとよい、而して鱒がその蔭に集つて居る間は、未だ大した危険が迫つたと心配するに及ばぬ。

地質が軽くて多孔質の所であるならば、長池でも普通の池でも周囲は板かコンクリートにせねばならぬが、水が全部よく保つ様にまでする必要もないことであるから、底まで板やコンクリートにすることも入らない、底が汚ない時には砂か礫を敷けばよいのである。

孵化槽で魚を飼ふ時は一日に一度は掃除をせなくてはならぬが、長池等ではその必要はない。實際の場合で、澤山の魚が放養してある池でも、一週間に一度位掃除すればよくて、又水流がよくなる様に、金網さへ注意して居るならば數週間位は、その儘にしてあつても別段魚に被害は無か

つた。又或孵化場では四月から十月まで七ヶ月間一度も掃除しなかつたけれども、夏中でも死魚は少く、活潑で、光澤がよくて、槽で養ふよりも成績が良かった、この池は幅六フイート、長さ三七フイート、深さ一〇乃至一二インチで、六〇〇尾の指長大の稚魚が入れてあつた、水量は多少の變化はあるけれども、平均すれば一分間二〇乃至三〇ガロン(五斗七斗五升)である。

實際の場合この汚い川の様な長池の中では、非常に力強い自淨作用が行はれて居るものである。底にある排泄物の堆積したものは、微生物(細菌、原生動物、昆虫の幼虫、藻)の如きもの、繁殖の爲に分解せられて、有機物も、無機物も總て無害の物に變り、又蚊の幼虫の如きが殖へて、來て藻と共に鱒殊に幼鱒が嗜む餌となるものである。

養鱒家中にも孵化槽から長池に魚を移す時期に就て見解が區々であるが、著者の私見としては、普通の状態で鱒がよく餌を食ふ様になつたならば、出来るだけ早く長池に移す方がよいと思ふ。現在は普通の方法では、數ヶ月間孵化槽で飼育して、初夏の頃に長池か、普通の池に出すのであるが、この方法では槽に容れて居る間は、鱒兒を直接監視するには容易であり、又安全であるけれども、この點は長池に於ける場合より、どれだけ優つて居るかは疑問である。魚を最初の數ヶ月間、孵化槽で飼ふべしと主張する人は

その稚魚時代に長池に移されたならば、非常に多数の死魚が出来るからであるのと、然も其の様な死魚はサカ／＼見づからぬ爲に、生存稚魚数の計算が到底出来ぬと考へるからである。魚が移された時には常に死魚が多くて、摘出される数よりも多数に上ることは事實である、然し池が完全に設備せられ、魚に大小の差が少く、且つ外敵を防ぐ設備があるならば、槽で養ふのも、池で養ふのも、大した差は無いと信じる、よく云はれる所の不明減耗と云ふものは、總て池の構造に不備の點があつて、魚が逃げ易く、魚を捕る鳥や獸の侵入と、共喰の多い爲であるが、此等の事項は設備を完全にすれば、除き得ることで比較的少しの經費で出来ることである。稚魚は殆ど動くことも出来まいと思ふ様な、小さな穴でさへも通り出るものであるから、水の注排水口の網は、その放養魚の大きさに應じて完全に設備せぬばならぬ。鳥や獸の様な外敵を防ぐには網で蔽ふより外に方法が無い。不明減耗の一原因である共喰は、よく餌を食つた成長の早い魚が、弱い魚を食ふからであるから、これを防ぐには魚を屢々選別して其の魚の大きさを大体揃へて、同じ區劃に放養替をすることである。

一般に魚を餌付しない前から池に移すと云ふことは、よくないことの様であるけれども、必ずしも其に限つたことは無く、池でも槽同様に餌付をすることは出来るものである。

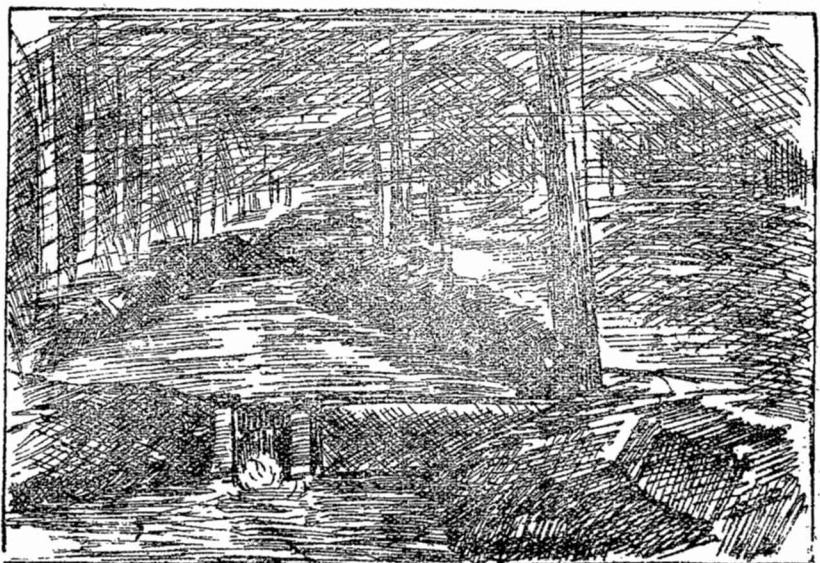
ある。

以上の如くして魚が三乃至四インチ位の大きさに、成長したならば、其の魚は出来るだけ自然に近よつて造られた飼育池に移すがい。

この飼育池 (Pool) は底が汚い場合はコンクリートにすればよいが、池周でも可成ならば自然に近い池にして、必ずしも木やコンクリートを主張するには及ばない。大きさは土地の状況に依るものであるが、大体は第二圖の様に比較的小さいものがよい、水深は浅くして、最深三乃至四フット位とし、水温が餘り昇らない様にするがよい、云ふまでもなく純良な水が澤山で、且つ循環する様に造らねばならぬ。池の最深部は池水の出口にある様にし、又底は總て周圍から傾斜して、排水の都合がよい様にする。

池に注入する水が多くなって池を多数にする場合は、池の衛生上或は魚の捕獲作業上、不便ではあるけれども階段式にするより外ない、この様な配列の池で注意すべきことは稚魚の池の水上に二年魚や親魚を飼はぬ様にすることである、これは年長魚には屢々寄生虫が寄生して居る爲に、幼い魚に傳染させる心配があるからである。

長池とか普通の飼育池は常に十分清浄にして置かねばならぬことは云ふまでもないことである。然し孵化槽の時の様に細かい注意をする必要はない、若し池に藻が非常に多



い場合は別として少々ならば残して置く方が池の衛生上にも、又魚の餌になる微生物の蕃殖の爲にもよい。水藻は空気を水に含ませるばかりでなく、藻に附着して居る生物を鱒が食ひ、又その藻をも鱒が食ふと云ふことは疑はれぬ事實であるからである。

池底の汚物を除くには、汚物を攪拌しない様にして、吸ひ取る方法を講じるがよい、若し吸ひ取ることが出来ねば排水孔のある最低部から排出せねばならぬ。池底の汚物の序に記載するが池の汚物を其の儘にして置くと、その分解分質の層が水底に出来るもので、其をその儘静かにして置けば、上層までは影響を與へないものであるけれども、若し動かすときは、其處に出来て居る有害瓦斯とか、有毒物質が散つて魚に害をすることがある。斯る場合に池が掃除せられた後でも、暫らくの間は木をよく通してからでなくては危険である。又この様な場合に限らず、どの様な池でも年に一、二回は數日間乾して置くことは、年中水を張り通した池よりも遙かに安全である。

### 鱒の餌料

近年に到り鱒の餌料に就て非常に注意がひかれる様になつた、然し未だ鱒の各年齢に應じて與へる様な、經濟的の餌は何であるかに就ては研究がない。

鱒の孵化場が成功すると否とを判断するには、先づ水の供給と云ふことが第一であるけれども、其に次いで毎日與へる餌料が必要條件である。

若し吾々が健康な魚を飼ひ度いならば、その魚には適当な餌を、適當な混合割合で與へねばならぬことは云ふまでもないが、この餌に就て考へねばならぬことは、成長が早いと云ふ點のみでは満足せず、魚の健康と云ふことに就て深く考慮せねばならぬ。

魚には餌を選別する能力があるから、餌の種類を多くして、種類別に與へることはよくない。

餌はその價格、供給等に制限せられるものであるから、安價で、且つ手に入り易いものを選ぶべきであるが、大別すると。

第一、新鮮なる馬肉、其の他の獸肉や肝臓、肺臓、心臓脾臓等

第二、動物質の乾燥物

第三、植物質であつて、小麦粉、麥粉、大豆とかメキシコ豆の粉等がこれである。

此頃水産局で調査した所では、羊の内臓は他の單食餌料よりも、非常に多量に使用せられて居ることが判つた。西部アメリカ地方で主として使用せられる馬肉は、これに次ぎ、この外に牛の肝臓、肺臓、豚の肝臓、穀類、魚類であ

る。

高等動物に於けると同じく、魚も蛋白質、炭水化物、脂肪、無機鹽類と之に加ふるに微量ではあるがビタミンを必要とする、然しこのビタミン全部のものが人間や高等動物に必要であるが如く、魚にも全部必要であるか否かは未だ決定せられて居らぬ。

以上の各營養素が丁度適當に調合せられた餌料が、鱒の餌として最も有効で、且つ經濟的である。而して其の味をよくすることも必要條件である。魚は餓へて居る時は、どの様な餌でも少量は食ふものであるけれども、味が悪い時はナカナカ食はないもので、食つたにしても成長は悪く、健康でなく、活潑でもないそれは十分餌を食はずに、餓を感じつゝ居るのである。

鱒の餌料は鱒の種類によつて違つて居るものであつて、近頃水産局で試験した所では、肝油と酵母との少量を餌に加へるのは虹鱒には、非常に効果があるが、河鱒には一向結果が現はれて來ないのである。多分この異つた結果が現はれると云ふことは、虹鱒は河鱒よりも、ビタミンの欠乏に感じ易い爲であることと、もう一つは河鱒が自分で求めて食ふ試験餌料水以外の餌の中にはビタミンを含んで居るからで、虹鱒はこの様なものを食はぬからであらうと考へられる。この様な譯であるから重ねて云ふが以下述べる所

の鱒の餌に就ての論議は主として河鱒に就てである。これも河鱒に就ては試験が多く出來て居るからである。然し必ずしも河鱒だけに應用することに限られた譯でなく、他の鱒や鮭、或は他の魚に就て参考となることは云ふまでもない。

餌の價値に就ての意見は、前にも述べた通り未だ一致して居らないけれども、鱒の餌の中に新鮮な餌を、或量加へずに長い間飼養して居るときは、よい結果が現はれて來ないと云ふことだけは一致した意見である。

マツク、ケイ氏とデイレイ氏とは一九二七年に假定物質Hと云ふものが低級の鮮肉中に存在するもので、この鮮肉を調理したり、乾燥したりすれば、そのH物質は無くなるかと云ふ説を出した、このHと云ふものは又熱すれば、直ぐ破壊せられて無くなるものである。

一般に鱒の餌として、單獨に肉類だけ與へても、よく飼育は出來るものであるけれども、ドンナ肉が最もよいかと云ふ點になると、意見は區々で一定して居らない。稚魚が體長三乃至四インチ位になるまでは、誰も牛の肝臓が一番よいと認めて居るが、虹鱒にしても、河鱒にしても、一般に單獨餌料よりも、混合餌料の方がよいと云ふことは明であつて、殊に牛の肝臓と心臓とを混合したものがよいと云はれて居る。肝臓は心臓よりも成長を促進させるものであ

るが、この肝臓のみを食はせると死亡率は多いものである。肝臓ばかり與へるにしても、牛とか豚或は羊と云ふ風に各獸の肝臓を混合した方が一種のものの肝臓單獨の場合よりも結果がよい。

馬肉は西部地方で澤山使用されて居るが、十分試験がしてないから、他と比較して證することは出來ないけれども結果のよいことは事實である。殊に三乃至四インチ以上の魚によい様である。而してこれも單獨よりも他の獸類の肝臓其の他の内臓を加へる方がよいのは勿論である。

價の安い鮮魚は非常に廣く使用せられるけれども、他の獸肉類よりも成長がよいとは考へられず、又健康でもない様である。且つ魚は貯蔵が困難であるから、時には腐敗した様な魚を食はせて、死を招く様なこともある。

近年獸肉の値が騰貴した爲に、三乃至四インチの大きさの魚には、鮮肉ばかり食はせると云ふことは不經濟である爲に、乾燥飼料を食はせる様になつた。この乾燥餌料は價は安い上、餌としての價値は相當によいものである。殊にこの乾燥餌料が動物質であるならば、これを鮮肉に混合して與へるとナカ／＼よい結果となる。

動物質乾燥餌料の内、鱒の餌としてよいと、水産局で推舉して居るのは、貝肉、蝦肉、鱈肉、鱈肝臓肉、牛乳の上皮等の乾製品である。

著者の試験では貝肉は罐詰工場の廢物を乾燥したものが混じて居るが、他の乾燥餌料よりも非常によい結果であつた。これを牛の肝臓と混合して、三―四インチの鱈に食せたら、牛の肝臓、心臓とを食はるよりもよい結果であつた、これは例外であるかも知れぬが……貝肉乾燥品と牛の肝臓とを混合して與へると成長もよく、死亡率も少く、外見上自然魚の様に色澤が非常によくなるのである。

牛乳の上皮乾燥品と牛の心臓とを混合したものは、よく成長し、死亡率が少い。要するに前記の如き乾燥品と鮮肉とを混合して與へるときは、相當成長した鱈の餌として好適であつて、魚の成長度も全然同じとは云へなくとも、略同じ位には成長する、且つ健康とか、元氣とかも決して悪いと云ふ形跡は見へない。

前記の通り豚肝臓、羊肝臓、その他羊の内臓は三―四インチの魚よりも大きな魚に食はせて、牛の肝臓、心臓の如きものは其よりも幼魚に食はせるべきものである。而して動物質肉粉はこれ等と混合して食はせた方がよい。

次の表はヒツプールド 孵化場で、河鱈の一年魚を使つて九―一〇日に亘り、七種に作つた餌で試験した結果であつて、乾燥品は粉末にしたものを水で練つてから、下記の粉砕鮮肉と混合したものである。

の鱈の餌として丁度よい程度である。養鱈家の内には鮮肉の内へ乾燥粉をその儘混合して居る人もあるが、これは感服されない。

鮮肉は普通七〇―八〇%の水分を含むが、極少量の乾燥肉粉を直ぐ鮮肉に加へても、其の蛋白質、炭水化物、脂肪等に對する水分の割合は變つて來るから、その割合の計算をする場合は注意を要することは云ふまでもない。

鮮肉が鱈の餌料として、よいと云ふ點はビタミンとか又礦物質を比較的多く含んで居るからであつて、これに反して肉粉の如きはこれが少ないのである。

又鱈は澱粉がその儘の時には消化する力が無いもので、調理せねばならぬ。穀物粉を鮮肉に混合すれば、そのツナギの作用をする外に、肉汁を吸ひ取つて、水に溶けることを防ぐものであるから、穀粉を加へる必要がある。

勿論多量の穀物を混合した餌で飼育した魚は、強健さとか、元氣さとかは、動物質餌料の場合よりは劣る様に認められるが、又其の魚の肉は軟くて、脂肪過多となる傾向がある、この様な魚は市賣魚としてはよくても、親魚とするには不向であるから、自然の餌に似た餌を與へねばならぬ尤もこれも魚の種類によることで、虹鱈は明に穀類の多い方がよい結果を得られる。

ビツプールド 孵化場で、西部地方の當業者が盛に使用

番號	混合割合	七月一日ヨリ十月九日マデ ノ九十一日間ノ体重増加率
一	豚三三、貝粉三三、蝦粉三三	二〇九%
二	羊内臓 五〇、貝粉 五〇	二〇〇
三	羊内臓三三、貝粉三三、蝦粉三三	一九〇
四	豚肝臓 五〇、貝粉	一八三
五	豚肝臓	一一七
六	羊肝臓	一一二
七	羊内臓	五一

この表を一見して豚肝臓、羊肝臓、羊内臓は貝肉粉とか蝦粉を加へた時の方が、單獨の時よりも、魚が大きくなることが判る。鱈肉粉、鱈肝臓粉或は乾燥上皮乳の如きものを加へても、同様の結果が得られるだろうと思ふ。

鮮肉の代りに乾燥品を使用することで最も必要なことは鮮肉と乾燥品との混合割合を如何にすべきかと云ふことである。而して其の割合は魚の大きさにも、年齢にも、又魚の種類によつて變らねばならぬことである。價格の點からのみ考へれば、鮮肉の少ない方が安價であるけれども、然し其の代用品の添加量には、自ら制限がなくては榮養上にも又餌の粘度にも影響する所が大きいものである。

鮮肉と肉粉とを混合する場合には、初めに乾燥粉を水で練つて 團子の様にして、次で鮮肉の中に練り込む様にす、この團子と鮮肉と同量位混じた時が、三―四インチ位

して居るメキシコ豆を使用して試験した所では、虹鱈の一年魚にては好成績であつたが、河鱈では劣つた、然るに一方に於て大豆粉を使用した所が、河鱈の方が虹鱈よりも好成績であつた。この理由は大豆粉は多量の蛋白質を含むもので、他の植物質餌料のどれよりも、動物質蛋白質によく似て居るからである。

其だから鱈の餌として、理想としてドレが優るとは決定的には云へないけれども、穀類は十分調理して、消化をよくし、粘度を増して肉類と混合するのがよい。

肝油をビタミンの給源として添加することは、河鱈と虹鱈とに結果が反對に出て來るものである、虹鱈の一年魚に就ては、肝油を一―二%添加するだけで非常に有益であるけれども、河鱈ではそれ程の効果は出ない。

前表に示す通りの鮮肉と、の貝肉粉との混合物は、鮮肉五〇%の時よりも、成長がよいから、魚に悪い影響と認めぬとすれば、鮮肉量はモット少くしてもよからう、然し老魚の餌としては鮮肉の割合は、ツット少くしてもよいと云ふことは判明して居るが、稚魚の餌としては肉粉を半分以上も混入することは勧められたことと無いと信じる。

穀類の如き植物質の餌料として糠類がよく使用せられる殊に民間養鱈家が多く使用して居る、これは結果のよいことと共に、値が安いからである。餌として鮮魚がよいか、

穀類がよいかと云ふ意見は區々であるが、稚魚の餌として穀物を多く使ふと云ふことは悪いとは考へないけれども三―四インチ位までのものを養ふのに、長い間穀物を多く使ふと云ふことは、反つて不經濟だと思ふ、其の理由は鱈の様に早く成長する魚は、蛋白質の多い餌を比較的多く食はせねばならぬのと、一は其が容易に消化吸収されるものでなくてはならぬからである。

以上の通りこの餌の問題は將來に待つべき事項が多いと云ふことで終はらねばならぬが、要するに鱈の餌は多くの鮮肉に乾燥肉とか穀粉の如きを適宜に混合して、肝油とか酵母の如きものを添加するがよい。

### 餌の與へ方

鮮肉でも、他の餌でも、魚がよく呑み込める様な十分、碎かねばならぬ、浮游魚が餌を食ひ始める頃は、よく食ひ過ぎることがあるから最も危険である。

魚が大きくなれば餌は大きなものでも呑み下すけれども其がよく碎かれたものでなくてはならぬ。

小さい稚魚に餌を與へる場合に、水を少し加へて練つて少し宛與へるのはよい方法であるが、或養魚家がやる様に少量宛の餌を、或間隔を置いて槽底に沈め、魚が自然に其を喰して食ふ様にするのも、餌と人手間が無駄にならなく

### 種の改良

養鱈家にとつて最も必要なことで、然も餘り注意を惹かぬことではあるが、よい親を養成すること即ち種の改良は極めて必要なことと信じる。連続して嚴格なる親の選擇、即ち種の改良をして行くことの必要なことは、家畜とか植物では明なことで、鱈に就ても同様と考へねばならぬことである。然るに養鱈に就ては、これが必要であると考へる人が少ない様で、寧ろ反つてこれと反對の傾向が見ゆる位である、即ち或人は自分の池の最良で最大のよい魚を賣却して、その残りの魚を産卵用に残す様な方法を探る人さへある位である。

或養鱈家はよい系統の魚を作つて誇として居たが、其が永久的によい結果が得られるにも拘らず、數ヶ年の間には効果が目に見えないが爲に、中止した人もある。

エンボッディ氏とハイフォールド氏は河鱈で試験をして、病氣に罹らない抵抗力の強い、成長度のよい魚を、三代の間作つた。然しこれも其の後は中止して終つた。

水産局でも選擇採卵試験に着手して、よい魚とよい魚とを交配して、相當優良な系統のものを得ることが出来る様になつたが、これも中止となつた。

親魚の形の揃つて居らないもの、兒は、よく揃つた親魚の兒よりも体形が均一でなく、又餘り違つた親の子、は同

てよい方法であるが、全部の魚が満足に食ふ機會を得るか否かは疑問である。

魚が餌につき始めたならば少くとも一日に五、六回は投餌するがよいが、大きくなるに従つて回数を少くし、三―四インチのものならば一日に二回位で其以上のものは一回でよい、若し早く成長させようとするならば、朝夕二回がよい。勿論魚が二回食ふ場合でも、一日分の量は多くせぬ方がよい。

云ふまでもなく餌は常に廣く撒き散して、魚に均一に食はせる様にせねばならぬ、そして其の投餌を中止する標準は先づ魚がバット集つて、元氣よく食ふ時に限るとして、元氣なく食ふ様になつたら中止した方が安全である。餌が底に沈む様になるまで投餌するのは、餌が損になるのみならず、魚は衰弱して、病氣になり易い。

河鱈の一年魚までの魚は少し位與へ過ぎても危険はないが、其よりも大きくなつた魚は、過食せしめるのはよくない、殊に水温が昇つて、魚が不活潑になつた場合は注意せねばならぬ。然し虹鱈は河鱈よりも、常によく食ふものであるから過食に陥ると云ふ心配は少ない。

鱈を捕揚けたり、遠方へ運搬する場合には、數時間前には餌を與へぬ様に注意せねばならぬ。

一状態で飼育しても成長度が違ふ様になる。親魚の形のみならず他の條件が少し違つて居つても、死亡率が比較的異なるのは注意すべき事項である。

一方に於て一体に孵化場自ら採卵した場合は、他地方から卵を購入した場合よりも結果がよいのは明かな事實である。これは環境の相違とか、他の條件等の關係から來るものであつて、他方から移された卵よりも、同じ條件の下に出來た卵から生れた兒の方が、よく發育し、又健康で活潑である。

鱈の孵化條件は水温とか、水中礦物質、瓦斯含有量等色々のものがあるが、地方々々で色々の變化があるから、最適はこれだ！と斷定して云ふことは六つかしい。環境の點から云ふても、随分廣い範圍に蕃殖するものであるから或一定の水温とか、水質に對しても變化適應して行く性質はあるにしても、或所のものは其所に固定して風土化した性質を帶ぶ様になるものである。

ピッツフォード孵化場では各地方から捕つた親魚の河鱈卵を別々に、區劃した孵化槽に收容して、同一状態の下に孵化飼育した所が、自分の所で採つた卵からの魚兒は、他方からの卵の兒よりも死亡率が少なかつた。

この様な點から考へると、養鱈家は十分注意して、よい親を育て、其から自分でよい卵を探つて行くのが最も安全であるから、正しき系統で、確實に成長のよい親魚からの採卵を何度となく繰返へして、次第々々によい魚苗を得る様に心掛くべきである。(昭和七年十二月)

昨年十一月十七日札幌放送局の郷土産業講座に於て放送された講演の要領を同氏に乞ふて掲載した。(編輯係)

日本人の少くとも半数はそれ以上の人は鮭と鱒とを重要な食品として日用用ひて居ると言へる。殊に北海道及東北地方に住する人々は此種類に少からず愛着心を有してゐる様に考へられる。お正月には無くならないものとして鮭を需める。又如何なる山間僻地に於ても鹽鱒をおかずとしない家庭はないと言ふてもよい。近年冷凍技術が進歩したので殆周年鮮魚と同様のものを味ふこと出来るやうになつたので一段とその需要が増した。斯様にして鮭鱒の需要は益々殖えて來たが反對にその漁獲高は次第に減少する傾向を示す趨勢にあるのは遺憾のことである。

そこで鮭鱒とは如何なる習性を有してゐるか。北海道の水産に對して如何なる産業的價値を有してゐるか。又將來は如何にこれを處置するを適當とするか。之等の事項は水産關係者としては當然充分考慮すべきものであるが又獨り自分の智識として死蔵するのには不得策であるから之を一般の人に知て貰ふ必要ありと考へるので以下概要に就て述べて見よう。

日本人に依る漁獲は極めて多いことは周知の事實であつて如何に以て我國富増進に貢獻してゐるかと言ふことを考へ得らるゝのである。

地方的に觀ては前述の如く我國は鮭鱒産地として他に比肩すること出来ないが我日本に就て觀るならば北海道は最も多く全日本産額の八五〇即一億二千万封度價格として五百萬圓以上に達する。この鮭鱒は毎年五月頃から十二月迄の間に沿岸及沖合に於て漁獲さるゝ。沿岸に於ては主として建網及地曳網で沖合では流網延繩に依て漁せらるゝのである。北海道の沿岸線約一千四百里に對し約二千七百ヶ所の建網と地曳網とがあり膽振、日高、十勝、釧路、根室、北見の諸方沖合では約五万八千流網及延繩が使はれてゐるそれで本道に於て最も多く漁れる地方は根室殊に千島であつて此所を中心として南方に至るに従ひ減産する。即オホーツク海及日本海方面では網走、宗谷、留萌、石狩、後志檜山の順に減産するし太平洋方面では釧路國、十勝、日高膽振、渡島の順に減産する。斯く鮭鱒は北方に多く南方に少いことは内陸の開發に伴て減少する關係があるからである。

北海道の總漁獲高を七千萬圓と見るならばその中鱒は最高位を占め一千万圓以上を算するが之に次ぐものは鮭鱒類である。而して之を加工して價値を高めた場合に見れば鱒

鮭鱒魚類と言ふ中には可なり多數の種類が含まれてゐる北海道に産するものでも約十五種もある。彼のアメマス(イワナ)、キウリウラ、シシャム、チカ(ワカサギ)、シラウオ等も矢張り鮭鱒類に屬する。然しこゝでは普通に言ふ鮭鱒に就て述べることにする。それはサケ、マス、カラフトマス、ベニマス、ギンマス、マスノスケであつて殊にサケ、マス、カラフトマスは産業上に重要な種類である。

此種類は北半球の特産であつて然も北太平洋には種類も多いし且産出も多い。此北太平洋を圍む亞細亞及北米大陸に産する鮭鱒類の産額は一ヶ年十七億封度に達する大量生産であつてこの中西比利亚(沿海州及加察加)は四一・二%即七億封度を占め最も多くアラスカの三〇・六%五億二千万封度、カナダを含む北米は二〇・〇%三億四千万封度の順序であつて我日本は最下位の八・三%即一億四千万封度である。地區的には日本は最も少いが漁業に従事する人種別に觀るならば日本人に依て漁獲さるゝ鮭鱒は北太平洋産額の少くとも三分の一に達するであらう即加察加に出漁す

鱒、昆布、鰯の次に鮭鱒が來る。然も鮭鱒は彼の鱒、鰯の如く大部分をベ舶にせねば處理することが出来ないと言ふ様なことはなく全部完全に食品化さるゝ利益がある。北海道に於て食品化さるゝ鮭鱒の中で最も多額を占めるのは鹽藏品であつて罐詰が之に次ぐ。燻製、筋子ともなる。これ等の中で外國へ輸出さるゝものは主として鹽鱒と罐詰であつて鹽鱒は支那、南洋方面へ罐詰は南洋及歐洲へ出る。

前に世界を通して鮭鱒産額は次第に減る傾向ある事を述べた。又北方に多く南方に減産することも述べた。北海道開拓當時の話を聞けば札幌附近に於ても澤山の鮭鱒が細流に遡て來たと言ふことであるが今日では全くの昔語となつて了まつた。明治初年の本道の鮭鱒漁獲高は多い年には二十万石以上(一石は鮭六十尾、鱒百二十尾)に達したことであるが明治の末期には著しく減して四万石内外となつた。近年は稍々恢復して十萬石位となつてゐるが未だ昔日の盛況には比べものとならない。北海道でさへ斯様な状況であるから内地府縣に於ては更にこれよりも慘な減少振りを示してゐる。

然らば何故に斯く減少するか。これに答へる前に先づ鮭鱒の習性と生活史とを述べねばならない。又これが解ればその答は自ら明瞭となるのである。

北海道の各所の河川に就いて見れば丁度櫻花が咲く頃即五月中旬頃から鱒は上て來る。櫻鱒と稱せらるゝ種類である。尤も北見方面では四月に已に遡河する鱒がある。それは口黒鱒と言ふのである。以上のものは種類としては同じものである。八月下旬頃となれば鮭が遡河する。これは翌年の一月頃まで河川に依ては二月三月に及ぶところがあ

鱒でも鮭でも必ず河に上て来て産卵する性質がある。殊に鱒は早く河に上るために相當期間河に留ます八月末から十月初にかけて産卵する。普通に鱒と稱へらるゝ中には右に述べた櫻鱒の他に樺太鱒(別名背張鱒)と言ふ異なる種類のものがある。これは櫻鱒よりもおくれて之に續いて河に上る。従て櫻鱒は河の極上流にまで上り樺太鱒はこれより稍々下流に産卵する。即造化の妙は櫻鱒と樺太鱒とは同じ場所産卵して相干渉することない様に出て来る。鱒でも鮭でも産卵は水の清い河底の礫床よりなる淺い處に於てする。雌が河底を掘て其所へ卵を産み再び砂礫を以て覆ふ。卵は自然に發育が進み早きも百日位晚きは百數十日を經て孵化する。稚魚は孵化當時は臍囊を有し營養を自給自足する様に出て来るから依然として礫床中に在るがこの養分が吸ひつくした時が丁度一人前の魚体となり且索餌する必要に迫らるゝので水中に浮遊する。稚魚は種類によりて異なる性質をもつておる。樺太鱒と鮭の稚魚は必ずその年の夏になる前に海に降て行て數年後に親となる迄は河に歸て来ないか櫻鱒は之等とは余程異つておつて春始めて河中に現はれた稚魚は秋迄に一部分のものは海に降るが一部分は依然として河に止まり冬を越し習春にそれ等が海に下る。何れの場合でも海に降るものは大部分が雌であつて雄は極めて少い。それで海で漁れる櫻鱒又は海から河へ上て来るものは雌が多く雄は極めて少い。反對に河に残つておる所謂ヤマベは雌が極めて少く雄が多い。ヤマベはヤマメから訛つた言葉であつてヤマベには雄ばかりで雌がないと稱へらるゝのはこの關係から来るのである。鱒とヤマベ

して大なる禍を爲しておる海中に於てのみ成育する鱒でも鱒でも或は鱒でも昔に較へては非常に減ておる場合であるから鮭鱒の如き漁獲され易しい且いろゝの障害に遇ふことの多い河川内に於ては蕃殖を阻害するゝてあらう事は容易に推測し得らるゝのである。往時開拓の余り進まなかつた時代には本道到處の河川に鮭鱒の大群が湧上産卵した事實があるが現在では千島方面に於てのみ此現象が見ることが出来る。明治初年二十万石の本道鮭鱒産額が今では十方石内外に減ておることは前に述べたが此の減る原因は已に述べた鮭鱒の習性によつて大槪説明がつく。鮭鱒の漁獲は多く産卵のため河に上る場合に行はれるから産卵数は減することは明かである。又産卵した後の卵と雖も河水のいろゝの變化のために孵化率が減る稚魚は更にこの變化の外に多くの人為的の障害に依て減るのてある。この障害は文化の進歩發達と共に益々烈しくなる。文化の進歩は阻止すへきものでないとしたならば如何にしてこの減少を防ぐへきか。それは人工蕃殖―人工孵化―によるより他に途はない。天然孵化と人工孵化との優劣は古來論議されたか近年は人工孵化の效果大なることは確定的となつた。

一尾の鮭には三千粒の卵を有しておるか之を天然孵化に待つときは極めてよい條件環境の下に於ても七百尾の稚魚が孵化するに過ぎない平均して五百尾と言ふ實驗がある。然るに人工孵化に依れば二千九百尾以上を孵化放流することが出来る。この見地より本道の鮭鱒の増殖は人工孵化事

との關係に就ては昔から議論のあるところでもまだお話をすることが澤山にあるが時間もないし先年「ヤマベの話」として此所から放送したこともあるので此の邊で打ち切りとする。然し何故に雌が多く海に下るかと言ふ疑問は誰でも持つところであらう。これは雌は食物の多い海に出て成長を遂げ多數の健全な卵を生む様にしなければならぬと言ふ關係から来る造化の妙とも言ふべきであらう。以上述べた様な性質は獨り櫻鱒ばかりでなく紅鱒と姫鱒、大西洋鮭の稚魚にも見るところである。

海に出た稚魚は廣い水界に於て運動が自由となり豊富な餌料を求めて急速に成長し成魚となつて沿岸に近づき河を求めて之に上る。その間の消息行動は余り知られていないこれは今後の研究に待たねばならないところである。河に上る魚は多く元産卵孵化した河に歸ると稱せられる。即同歸性と言ふ性質である。彼の一寸が二寸足らずの稚魚がある大海に出て然も二年乃至五年後によく自分の故郷を忘れずに歸ると言ふことは實に驚くべき事である。万物の靈長を以て自任する人間でさへ自己の生家を忘れて省みず。或は故郷を忘れ甚だしきは祖國を忘れる輩がある事を思へば誠に興味ある對照である。この同歸性の説明は未だ學術的に解ておらないが彼あ渡り鳥が年々略々同じ道路を通り同じ場所に降りること、共に面白い性質である。理由は説明つかないが同歸性の事實は到處で説明される。

前に鮭鱒は漸減の傾向に在る事を述べたがそれは何故であるか。海から河へ上て産卵し稚魚は海に降て成育する性質を有しておるためにこの海河間の移動は鮭鱒の蕃殖に對業に依るへしとの計畫が立てられ現在北海道廳經營の孵化場三箇所、民營孵化場五十四箇所合計五十七ヶ所に於て年々鮭約二億五千万尾、鱒一億尾を孵化放流しておる。これは今後本道の鮭年産額四万五千石、鱒三万五千石を最底額として常に之以上に在らしむる目的を以て昭和二年度以來實施しておる。然るに現在鮭は略々四万五千石に近く鱒は豫定計畫を遙に超過する好成绩を収めてる。

然し前に述べた如く本道内陸の開発は今後益々盛んなることは確かである。現今行はるゝ人工孵化事業計畫を以てしては果してその目的を達すること出来るか危まるゝところあるのてこの計畫を改善して官民協力しその實を擧ぐることにつとめなければならぬと思はるゝのである。それにつけても親魚及稚魚の濫獲をつゝしむること、魚道を妨げぬこと、水質を惡變せしめぬ事は人工孵化に伴て實行されればならない。而してこれは獨り漁業者のみの問題とせず廣く一般人の注意に待たねばならぬものである。殊に稚魚の愛護觀念は今一層向上せしむる様にし度い。北米合衆國の或孵化場ではその稚魚を放流すれば下流沿川の小學兒童や青年が稚魚の流下を助け餌を撒いて成育を計ると言ふ美舉があることを聞いておる。我國鮭鱒産地として樞要なる位地を占むる本道に於ては孵化場から放流された稚魚は一般本道人の共有物である。之を保護して後年に經濟價値が増加した時に漁て利用すると言ふ觀念をもつてこれを實行するゝ事を希望して此お話を終へることにする。(完)

雜 報

○鱒類飼育成績

昭和四年度より同六年度に至る間に鱒、虹鱒、紅鱒種卵を北海道廳の斡旋に依り分與を受けて飼育する者の七年度秋季現在の状況を一覽表を以て示せば次の如くである。

年度	種類	分與卵數	放養尾數	放棄水面面積水深	現在の大さ	經營者
四	鱒	二万粒	五千尾	六〇坪	賣却済	石狩國上川村
六	鱒	十二万粒	四万尾	一〇〇坪	平均二寸	明石 幸輔
六	鱒	一万粒	?	三〇〇坪	平均二寸	石狩國輕川 林長右工門
六	鱒	三万粒	二万尾	六四坪	平均二寸	膽振國登別 小笠原常吉
四	鱒	三万粒	二万九千尾	二尺五寸	平均二寸五分	膽振國登別
六	鱒	三万粒	二万八千尾	一五坪	二一三、五寸尾	小西福一郎
四	鱒	十万粒	?	三万坪	八寸	函館市外赤川
六	鱒	二万粒	一万尾	六十一尺	六八寸	函館市水道課
六	鱒	二万粒	運搬中ニ全滅	三尺五寸	平均二寸	函館市水道課

○鮭類孵化事業補助金決定

昭和七年度民營孵化事業に對する補助金は本年一月六日付左の如く許可指令が發せられた。

經營者	孵化場	補助金
洞株鮭養殖組合	洞株	五〇圓
尻別川鮭同孵化組合	尻別	五〇圓
歌樂漁業組合	朱太	五五〇
瀨柳郡漁業組合	利別	二八〇
上ノ國村	天ノ川	二〇〇
厚澤部村	厚澤部	八〇
知内村	知内	一五〇
遊樂部川鮭養殖組合	遊樂部	七〇〇
長流川鮭同孵化組合	長流	一五〇
洞爺湖漁業組合	洞爺	二七〇
膽振水産會	柳生	四六四

成積不明	孵化場	補助金
一万粒	十勝國帶廣町	?
二千尾	江川	?
九千五百尾	渡島國七飯村	?
二〇〇坪	和田	?
二四尺	和國	?
平均九、八、四寸	安藤	?
平均二、八、四寸	武夫	?

備考 經營者氏名肩書は養魚場所在地を示せり

日高水産會	三石水産會	元浦	十勝水産會	吉内	銅路	尾幌	尻別湖	伊茶仁、羅白津	奔別、標白津	當風、上當風	冷葉白	東湯	音根	泊路	當那門	老飛那	別系	比良	有系	カモベツ	羅白	斜里	網走	紋別	
六四〇	一六〇	一六〇	一、二六〇	六〇〇	一四四	五六	一〇、〇四一	一四〇	五六〇	二六二	一四四	九一八	一、三六五	三五七	七一四	一、九〇四	五〇三	二、〇三八	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇	一、〇四〇

○道會議員有志の千歳孵化場採卵場視察

去る十二月十日北海道會出席中の議員有志十九名に道會書記室より五名參加し千歳採卵場を視察した。同場に於ては捕魚車の運轉狀況、採卵作業を見學し鮭料理に舌鼓を打て即日歸札した。

○膽振水産會孵化事業創始二十周年記念祝賀會

去る十月十八日膽振水産會孵化事業創始二十周年を記念する祝賀會は舉行された。此日相憎の雨天にて會場たる敷生川親魚捕獲場にて舉行すること不可能となりし爲め急に敷生村荻野旅館に變更し開催せり。集る者七十余名、齋藤會長の挨拶、來賓の祝辭あり後祝宴を開き盛況裡に薄暮無事閉會せり。

枝幸鮭養殖水産組合	天鹽鮭養殖水産組合	計
五〇四	九〇〇	二七、九四八



二、經營ノ節約

方 法	摘 要
孵化場ノ整理 捕獲場ノ整理 經常費ノ節約 事務費ノ節約 新規工事ノ見合	多數ノ孵化場ヲ經營スルモノハ特ニ重要ナルモノニ主力ヲ注クタメ否ラサルモノハ當分休止スルコト 甚タシク收支相償ハサル捕獲場ハ休止スルコト

三、能率増進

(一) 事務擔當者ノ改善

技術員ノ改善

(二) 密漁取締ノ勵行

請願巡查ノ活用ヲ期スルコト、沿川密漁者ヲ使用人トスルコト、漁業取締規則ニ於テ鮭鱒ノ所持販賣ヲ禁スル様改正セラレ度シ、水産団体ノ職員ニ漁業監督吏員タルコトヲ得セシムル様セラレ度シ

(四) 障害ノ除去輕減

孵化事業ヲ行フ河川ノ保護區域内ノ漁業權ヲ整理セラレ度シ  
 孵化場ニモ災害復舊費ニヨリ復舊ニ補助セラル、様取計ハシ度シ  
 本海折殖計畫ニ於ケル諸産業ト孵化事業トノ融和ヲ尙一層深カラシメ度シ

四、起 債

低利資金ノ融通ニツキ特ニ便宜ヲ取計ハレ度シ

ルコト  
 本委員ニシテ道水産會議員タル者

(二) 研究事項ハ左記委員ニ於テ處理スルコト  
 本委員ニシテ道廳水産課道水産會ニ在ル者

○鮭鱒孵化事業に關する民

營孵化事業代表者の陳情

前記孵化事業調査會の決議に基き去る十二月一日日本道民營孵化事業經營者を代表し左記の陳情書を北海道廳長官、産業部長、水産課長へ提出した。尙長官とは親して面會し懇談を逐ぐる機會を得て陳情の趣旨に就て有利なる解決を得べき曙光を認められたものゝ様である

陳 情 書

本道水産ノ重要位置ヲ占ムル鮭鱒漁業ノ安定ヲ期スルニハ人工孵化放流事業ノ施行ニ依ルチ唯一ノ方策トスルコトハ敢テ多言ヲ要セサル處ニ候然ルニ近時内陸ノ開發駁々トシテ進ミ本事業ノ効果ヲ減殺スルノ惧アルコトヲ憂ヒ對策ニ腐心スル折柄近時經濟界ノ不況ハ民營孵化事業ノ唯一ノ財源タル親魚價格ノ暴落ヲ來シ又御廳補助金ハ年々減少スルノ不幸ニ遭シ加之多額ノ負債ニ悩マサレ多クノ事業經營者ハ今ヤ多大ノ困難窮乏ニ直面シ困憊ノ極ニ在ル次第ニ有之候目下自力更生ノ強調セラル、場合万難ヲ排シテ

二、鮭鱒孵化事業計畫ニ關スル事項

第二期折殖計畫ニ於ケル鮭鱒孵化事業ノ實施ハ將來鮭年産額四万五千石鱒三万五千石ヲ維持スル目標ノ下ニ年々ノ稚魚放流數ヲ定メ官民營孵化事業ノ協力施行ヲ爲スモノナリ而シテ現在迄ノ成績ハ略々豫定計畫ノ漁獲ヲ舉グルノ好成绩ヲ示スモ内陸開發ノ進歩經濟界不況ニ伴フ漁業ノ損失已往ノ孵化事業ニ關スル經驗等ニ徴シ現計畫ヲ改訂スルノ必要ヲ認ム但シ此改訂ヲシテ鮭鱒増殖ヲ理想のノモノトシタルシムルニハ莫大ノ經費ヲ要シ實行容易ナラサルニヨリ茲ニ改訂スベキ計畫ハ次ノ如ク決議セリ

(一) 漁獲目標ハ鮭五万石鱒ハ十二万石漁獲トスルコト、シ講究スルコト

(二) 全道孵化事業(現在ノ官營ヲ除キ)ハ民營事業トシテ合同經營スルチ可ト認ム

三、孵化事業經營統制ニ關スル事項

現在本道ニ於ケル鮭鱒孵化事業經營者ハ三十九名(官營一、水産諸團體及自治体三十一、個人七)ニシテ經營上ノ連絡ナク各自單獨ニ事業ヲ行フ状態ナリ  
 之ヲ適當ニ統制シ經營主体ヲ單一化スルチ得ハ利スル所多キハ明カナリ而シテ之ヲ實現スル方法トシテ二、孵化事業計畫ニ關スル事項ニ於テ記スル所ニ依リ經費關係ヲ併セ講究ノ結果次ノ如ク決議セリ

全道孵化事業合同案中ノ官營一、民營一トスル統制法ヲ可ト認ム

實行方法ニ關スル事項

本調査會ニテ得タル成案ノ實行方法ニ關シ次ノ如ク決議セリ

(一) 以上決議ノ中官廳ニ陳情スル事項ハ左記委員ニ於テ處理ス

獨力之レニ抗スヘク努力スルモ積年ノ不況ハ終ニ如何トモ爲シ難ク茲ニ閣下ノ御同情ニ訴ヘ應急並ニ將來ノ對策ニ御援助ノチ乞フヘク陳情仕候間目下道政多端ノ折柄恐縮ニ存候得共本道鮭鱒漁業ノ爲ニ孵化事業關係者ニ特別ノ御明察ヲ賜リ度此段陳情候也  
 昭和七年十二月一日

民營孵化場經營者代表

- 野 坂 良 吉 ①
- 大 西 眞 平 ②
- 八 木 澤 繁 次 ③
- 齋 藤 篤 ④
- 近 江 幸 一 郎 ⑤

記

北海道廳長官 佐上信一殿

一、孵化事業經營ノ安定ヲ圖ル爲メ適當ナル恒久財源ヲ附與セラレタシ

一、現在ノ窮境ヲ救フ爲メ河口附近ニ於ケル鮭鱒特別採捕ヲ許可セラレタシ

一、負債整理ノ爲メ低利資金ノ融通ニツキ特ニ便宜ヲ取計ハレ度シ

一、孵化事業ヲ行フ河川ノ保護區域内ノ漁業權ヲ整理セラレタシ

一、孵化事業ニ對シ障害トナルヘキ各種産業ヲ適當ニ處置講究セラレタシ

一、孵化事業ノ性質ニ鑑ミ全道孵化場ハ國費ノ經營ニ移管セラレタシ

○新刊紹介

豫て豫告しおきたる鮭鱒人工蕃殖論(半田芳男著、定價四圓五十錢、運料十四錢)は愈々昨年十一月四日發行せり發行所は本會にして本會及札幌市丸善書店にて發賣中なり

○鮭放流稚魚の回歸漁獲高表の配布

本道の鮭漁獲高の消長は放流稚魚の多寡に比例する顯著なる事實あり。以て孵化事業の實施及漁業經營に多大の關係あるものと認め本會に於て之を圖表に作成し會員及廣く全國關係方面へ配布することになれり。

○消息

高田 幸二君

北大農學實科講師として本誌へ度々有益なる寄稿をなさるゝ氏は多年研鑽の功成り農學博士の學位を得らる。獨り同氏のためのみならず斯界のため慶賀に堪へず

三上宅 市君  
今井 藤藏君

入 會  
退 會

古澤鴻三君

根室鮭鱒養殖水産組合書記長として本道鮭鱒孵化事業界の重鎮たりし氏は舊曆二

十八日突如急逝さる。謹んで哀悼の意を表す。

○會費領收報告

(二種會員)  
(七年十月以降)

- 七年度分  
押味幸一、山添新、蹴揚富太郎、波多野安吉、池田利三郎、石井久治、渡邊定吉、野口正樹、齋藤光雄、佐藤源太郎、三上宅市、三宅陸夫、瀧澤英策
- 六年度分  
押味幸一、山添新、渡邊定吉、小田都景一、幸内慎治郎、三宅陸夫、瀧澤英策
- 五年度分  
幸内慎治郎

○寄贈圖書

(七年十月以後)

東京水産新聞、水産新報、日本水政新聞、釣人

鮭鱒孵化用器具ノ

御用命ハ是非!!弊店へ

- 一、鮭、鱒、鮎、鯉、孵化盆及同枠
- 一、同孵化槽、受卵器
- 一、アスファルト(流動)塗料
- 一、テレピン油、各種染料
- 一、龜(甲)紗(卵掬用)海綿
- 一、醫療藥品、工業藥品、高名賣藥
- 一、山本藥院製劑衛生材料
- 一、孵化用器具製作發賣元

父子堂 山本勝見藥舖工作部

札幌市北三條東六丁目(電停前)

電話 二五二七番

振替小樽三九七八番

昭和八年一月廿五印刷  
昭和八年一月三十發行

札幌市北二條西七丁目一番地

編輯兼 半田芳男

札幌市北一條西六丁目一番地

印刷人 大谷木 茂

札幌市北一條西六丁目一番地

印刷所 文昭堂印刷所

電話 三二八五番

札幌市北三條西六丁目北海道廳水産課内

發行所 北海道鮭鱒孵化事業協會

電話 二六三〇(内線六七番)

振替口座小樽二一四八番

式一器化孵鱒鮭  
賣販造製

大  
林  
長  
兵  
衛

札幌市北四條西七丁目一番地  
電話 一四五一番